

社会福祉法人祥和会

2022年(令和4年)度事業報告

地域密着型特別養護老人ホーム五本松の家
ショートステイ五本松の家
デイサービスセンター五本松の家

【施設の概要・職員配置】※2023年3月31日現在

事業所名	定員	職員数（全体計：50人）	摘要
地域密着型特別養護老人ホーム五本松の家	29人	施設長、介護職員16人 看護師、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、調理員	10人×2ユニット・ 9人×1ユニット
ショートステイ五本松の家 （短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）	20人	管理者、介護職員10人 看護師、生活相談員、管理栄養士、機能訓練指導員	10人×2ユニット 管理者、機能訓練指導員、生活相談員、管理栄養士、調理員は、特養と兼務
デイサービス五本松の家（通所介護・介護予防通所介護）	25人	管理者、介護職員5人 生活相談員、管理栄養士等	生活相談員は介護職員1人兼務、管理栄養士、調理員特養兼務

職員配置について、中途の退職等があったが随時補充できた。

【事業区分別事業報告】

2022年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、当施設においても家族の面会制限、外出制限、集団のイベントの自粛などを行った。

一方、例年行っていた施設内行事は、ワクチン接種の確認や声掛けをしながら、入居者、利用者のニーズに応じて、感染症対策を行いできるだけ開催した。

家族の面会は、前年度から継続して窓越しでの面会としたが、施設内行事に家族の参加が困難であったため、行事や日常の様子を文章と写真で作成し、毎月の書類と一緒に郵送したり、SNS（ホームページ、LINE、Instagram）を活用して日常の様子をこまめに発信した。

また、職員研修や各種委員会については、換気やソーシャルディスタンスに配慮し、参加人数の制限や実施回数を調整した上で実施した。

1) 地域密着型特別養護老人ホーム五本松の家

【2022年度目標】

- ① 前年度に続き、入居者やご家族の安心・安全の確保、健康管理に重点を置き、感染症対策の徹底、職員の知識、技術の向上に努める。現在、重介護者が増えており、看取りケアの知識を深め、家族とともに入居者の看取りを支援する。
- ② 入居者の入院による空きベッドを毎月の延べ人数の1割にとどめ、退居から新規入居までの日数を7日以内とする。

入居者の平均年齢（令和5年3月31日現在の入居者）は、86歳10ヶ月（男性：82歳11ヶ月・女性：88歳10ヶ月）

2022年度中の入居者38人(実人数)の要介護度は、4.2(男性:3.8、女性:4.4)となっている。

2022年度中の利用率は、97.88%、退居者は9人、その内訳は、施設内での看取り6人、医療機関での死亡2人、入院継続1人であった。退居から入居までの日数は、最短で2日、最長で9日、平均5.1日。新規入居者は9人、入居前の内訳は、在宅8人(ショートステイ)、グループホーム1人となっている。

2022年度もコロナ禍による制限が多い中、行事は全体開催を控え、各ユニットで外出制限によるストレス改善等を検討し、さまざまな行事を開催した。

※各行事は、特養・ショートステイ・デイサービスともに開催。

4月	お花見ドライブ・ワインゼリー作り、鯉のぼり、桜もち作り
5月	薔薇鑑賞、薔薇風呂、端午の節句イベント、母の日イベント、抹茶プリン、柏餅作り等 消防避難訓練
6月	お茶会、あじさいゼリー作り、テルテル坊主作成 ミルクプリン、七夕飾り作成 水害避難訓練
7月	七夕祭り、コーヒーゼリー、パフェ作り かき氷、フレンチトースト作り 新型コロナウイルスワクチン予防接種(4回目) 水害避難訓練
8月	花火大会、ハイビスカス作り すいか割り・フルーツポンチ作り 夏祭り 新型コロナウイルスワクチン予防接種(4回目)
9月	おはぎ、プリン、みたらし団子、お汁粉作り さつまいもを使ったおやつ作り 敬老の日イベント
10月	大運動会、ハロウィンカフェ、ハロウィン居酒屋(特養のみ) スイートポテト、かぼちゃパフェ、蒸しパン作り 消防避難訓練
11月	秋の壁画作り、カレンダー作り、いい風呂体験 ショートステイ居酒屋 かぼちゃプリン、スイートポテト、フルーチェ作り インフルエンザ予防接種 新型コロナウイルスワクチン予防接種(5回目)
12月	カップケーキ、クリスマスケーキ作り しめ縄作り、忘年会 新型コロナウイルスワクチン予防接種(5回目)
1月	お正月行事、初詣、新年会 チョコフォンデュ作り
2月	節分行事・バレンタイン企画 豆まき、三食マフィン、プリン、チョコパイ作り、リース作り
3月	ひな祭り、春と桜の工作、抹茶どら焼き、フルーチェ作り お花見ドライブ

	ぼたもち、
その他イベント	出前レクリエーション（寿司やお弁当など） 美容院（月2回）外出散歩（随時）

2) ショートステイ五本松の家

2022年度のショートステイ五本松の家の目標は、

- ① 利用希望されている方の思いにできる限りこたえられるよう、平素から居宅介護支援事業所、利用者ご家族との連携を密にとり、稼働率85%を保つ。
- ② 在宅での生活が非常に困難な方の受け入れを積極的に行う。
(要介護度の高い方〈要介護3～5〉の受け入れを重視する。)

2022年度の利用率は、94.6%、年度内利用者実人数は37人、その内訳は、男性9人、女性28人となっている。

2023年3月31日現在の利用者の平均年齢は、男性78歳、女性87歳ヶ月、全体では85歳9ヶ月となっている。

毎月季節行事、おやつレクリエーションや作業療法など、様々な行事を取り入れ、さらにユニットごとに集団体操を実施し、自立支援の取り組みを実施。

難病や、歩行制限がある方、在宅酸素を使用している利用者や重度の認知症の利用者など、医療依存度が高い利用者に対しても、受け入れ前に職員の勉強会を行うなど、積極的に受け入れるための取り組みを行った。

新型コロナウイルス感染症への対応として、ユニット間の移動制限、入所時抗原検査の実施、外出制限、WEB診療、窓越し面会など様々な取り組みを行い、感染予防を徹底した。

外出制限のため、入所者のストレスも高く、施設内でできる行事を毎月企画し、写真を取り、さらに、家族やケアマネジャー向けの広報誌「ほっと五本松の家通信」を作成し、配布を行って、施設内の様子を発信した。職員とともに近所への散歩なども行った。

3) デイサービス五本松の家

2022年度デイサービス五本松の家の目標は、

- ① デイサービスが日常を過ごす場所のひとつになるように、利用者の生活のリズムや想いに寄り添った関わりを提供する。
- ② 新規利用者を増やし、稼働率65%以上を確保していく。
- ③ 感染症防止に努め、レクリエーション活動・EVENTの充実化を図る

2022年度については、前年度平均稼働率58.2%（一日平均14.5名）から稼働率65%（一日平均16.2名）を確保することに重点を置き運営を行った結果、今年度平均稼働率61.7%（一日平均15.6名）と目標未達成（-2.4%）となった。

今年度、居宅介護支援事業所等による新規紹介件数20件の内14名の新規獲得に繋がっ

た。しかしながら、逝去、体調不良による長期入院、施設入所、他サービスの利用などの理由により、利用中止者も多く発生し、2022年度下半期より数値を落とす結果となった。

運営方針では、認知症診断を受けている利用者が6—7割以上を占めていることから、認知症アプローチをベースに、安心できる環境の設定から、社会的孤立感の軽減目的、生活リハビリの一貫としての機能維持に向けたシステム構築を行った。

以上の取り組みを実施しながら、デイサービス通信【HOME】にて、利用者の様子が分かるように、ケアマネジャーならびに家族などへ理解をしていただく為に配布活動を行った。

★デイサービスでの主な活動や提供内容

集団体操、脳トレ、カラオケ、季節・時期に応じたレクリエーションや作品作り、物理療法（低周波、ホットパック）、ウォーターベッド、リハビリ有資格者による個別機能練習やアドバイス

【法人、職員、地域交流スペース等行事報告】

4月	入社式、職員研修、接遇研修（18・19日外部講師） 職員健診（全職員対象：9日、16日、20日、23日） 福山医療学園施設説明訪問（14日）
5月	町内一斉清掃参加（22日） BLS研修（15日・外部講師） 消防避難訓練（26日）
6月	監事監査（2日） 理事会（16日） 評議員会（28日）
7月	水害避難訓練（12日） 入居者新型コロナワクチン接種（26日） 美作大学社会福祉学部学生見学（2日） BLS研修（15日・外部講師） 地域密着型特別養護老人ホーム入居者家族会（23・24日）
8月	入居者新型コロナワクチン接種（2、12日） 夏祭り（21日）消防点検（10日） 中国地区老人福祉設研究発表大会（Web開催） 東京大学見学（17・18・19日） スナック五本松（17日）
9月	敬老会（12日）消防設備点検（22日） マイナンバー申請（2日） 浴槽内レジオネラ属菌・大腸菌群検査 貯水槽清掃 新型コロナウイルス感染症対策シュミレーション（12・13日・24時間） 京都大学学生視察見学（21日・22日） 尾道福祉専門学校実習Ⅰ（8日～14）、Ⅱ（8/25～9/30）
10月	水質検査（14日） 職員健診（新入職員・夜勤者）（14日、29日）

	消防訓練（25日） 美作大学学生見学（14日） 医療法人好縁会視察（14日） 建築設備建物検査（24日） 消防設備点検（28日） かわまち広場トライアスロンボランティア（8日）
11月	館内清掃（5日、9日、12日、19日、29日） インフルエンザ予防接種（4・11・25日） 東京大学より視察受け入れ（5・6日） スナック五本松（5日） 五日市記念病院視察（9日） ベトナム人医師見学（25日） 消防避難訓練（25日） 五本松長寿会百歳体操講師参加（和木・五本松会館27日） 福山平成大学先生見学、撮影（29日）
12月	クリスマス会（23日） 新型コロナワクチン予防接種（5回目） 社会福祉法人忘年会（8・13日）
1月	令和4年度全国老人福祉施設大会・研究会議（合同大会）（27日・28日） 発表参加・奨励賞受賞
2月	消防訓練（28日） 薬剤勉強会（14日・外部講師）
3月	消防避難訓練（17日） 理事会（9日） 評議員会（29日）

【委員会・会議報告】

会議・委員会名	頻度・実施	参加者等
経営・運営会議	週1回・月曜日	理事長・事務局長・理事・事務・施設長
運営推進会議	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月より中止	
リーダー会議	月2回	施設長、主任・管理者・各リーダー等
安全衛生会議	月1回	施設長、主任・管理者・各リーダー、各専門職等
ユニット、部門ミーティング	月1回	各部門スタッフ
サブリーダー会議	月1回	各部署サブリーダー、主任、施設長
ケアプランミーティング	必要時	施設長、主任・介護支援専門員、生活相談員、管理栄養士、機能訓練指導員、ユニットスタッフ、看護師等
事故防止委員会	月1回	担当委員（和木・各部署代表）
感染防止委員会	月1回	担当委員（石井・各部署代表）
身体拘束廃止委員会	月1回	担当委員（城平・各部署代表）
栄養・褥瘡防止委員会	月1回	担当委員（新山・森川各部署代表）
企画委員会	2か月に1回	担当委員（西原・各部署代表）
研修委員会	2か月に1回	担当委員（大石・各部署代表）
排泄委員会	2か月に1回	担当委員（正明・各部署代表）

■法人本部 事業報告

【理事会】6月16日、3月9日

【評議員会】6月28日、3月29日

【監査】6月2日

【運営推進会議】新型コロナ感染対策のため中止

【特養入所判定会議】1月12日書面決議

■地域交流スペース・法人事業報告

地域交流スペースでは、毎週月・水・金の午前中、「暮らしの保健室ふくまち」の相談事業を行った。毎週金曜日（10時半～11時半）には地域の方々、入居者家族などを対象に「おしゃべり体操教室」を行っていたが、2022年度は新型コロナウイルス感染拡大による中止、再開を繰り返した。

また「暮らしの保健室ふくまち」では感染状態をみながら、7月、10月美作大学、9月21日、22日、京都大学、11月東京大学、10月に医療法人好縁会より視察受け入れも行った。さらに11月には、視察にあわせて人数を制限し、「スナック五本松」を開催することができた。

■職員に関すること

2022年度採用者は、11人（介護職員6人、看護職員3人、調理員1人、言語聴覚士1人）退職者は10人となっている。

新型コロナウイルス感染症のため、新入職員歓迎会、定期的な職員交流会は開催することが難しかったが、感染が低迷した際に、少人数で複数回、交流会を開催することを行った。

地域活動への参加も積極的に行い、町内一斉清掃の溝掃除への参加、集会所の清掃等への参加も行った。

新型コロナウイルス感染症対策として、月に4回程度、職員への抗原検査またはPCR検査等を積極的に行い、感染予防管理、早期発見対策を徹底した。職員や入居者の発熱や体調不良等の対応も、協力病院と連携して早期対応を行った。2022年度は、職員15名、入居者4名の陽性があった。その中でも12月には、一度に職員・入居者あわせて5名の感染が認められ、クラスター登録となった。うち入居者2名は呼吸状態が悪化し、脳神経センター大田記念病院（コロナ病棟）に入院をお願いする事となった。あと2名（1名は遅れて症状発症、1名は無症状）の入居者はユニットにて施設療養を行った。1ユニットのみで、感染拡大は防ぐことができ、1月7日に収束することができた。

また、2021年10月に行われた「福山ブロック研究発表会」では、施設ケア部門の

代表としてテーマ「最期まで食べる事を支える介護」の発表が県大会へ選出され、さらに、2022年2月の県大会で、中国地区大会へ進み、2022年8月の中国大会でも代表選出された。2023年1月26・27日栃木県宇都宮市で開催された「令和4年度 全国老人福祉施設大会・研究会議（合同大会）」にて発表し、奨励賞をいただいた。

■ 2022年度まとめ

2022年度は、2020年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症への対策、対応、予防、そして発症時の対応など、施設全体として様々な点を検討し、ショートステイの利用制限、利用者、入居者の外出制限、会議や研修会の開催制限、行事の中止などを行い、積極的にスクリーニング検査にも取り組み、継続して感染症の拡大に取り組んだ。

課題も多く残ったが、事業ごとの広報活動や、スタッフ主導のイベントやSNSの活用など、コロナ禍でできることを施設全体で模索し取り組む姿勢が確立できた。大きな行事や、外部とのかかわりは激減したが、そのような中でも、ご家族や地域への情報の発信、施設に関わっていただけることを模索しながら施設内行事を開催した。

また、施設での看取りも定着し、スタッフ全員で看取りに取りくんでいく体制づくりができ、お一人お一人の状況にあわせて、ご家族とスタッフが一緒に看取りケアを行い、さらに専門的なガン末期のケアも行った。すべての人が施設内看取りにはならなかったが、ぎりぎりまで施設での対応を行うことができ、6人の入居者のお看取りができた。

職員教育、職員交流も少しずつ拡大し、さらに全国老人福祉施設大会・研究会議に出場し、奨励賞を獲得したことも職員のモチベーションをあげていく大きなきっかけとなった。

2023年度は、引き続き感染症対策を継続しながらも、できる限り日常に戻していけるサービスの工夫を検討し、デイサービス、ショートステイの拡充、利用者主体の運営、広報活動を実施して行く。